



## 平成23年度「酪農フィールド科学演習」が開催されました

### 1. 本授業開講の趣旨

広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）が平成21年度「教育関係共同利用拠点」に認定されたことを受け(認定期間：平成22年6月10日～平成27年3月31日)、教育拠点活動の一環として平成23年度8月30日（火）～9月2日（金）にかけて、農学系学部学生を対象に「酪農フィールド科学演習-乳牛を中心とした食農フィールド演習-」を開講しました。

本演習は農学の基礎知識を持った学生が、教育共同利用拠点の認定を受けた本農場(附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション)をはじめとして、食品製造実験実習棟や精密実験農場において、草と家畜(特に乳牛)と土との循環の中でミルクを生産して食品に加工していく過程を体験的に学び、講義、実習および

### 2. 受講者

以下の通りでした（アライズ実習）。

所属	受講者数
生物資源学科	2名
総合農学科学科	1名
応用生物科学科	1名
環境科学科	1名
農学系・生命化学コース	1名
農学系・環境農学コース	1名
農業生産学科	2名
生物資源環境学科	4名
生物生産学科	22名
生物機能科学科	2名
計	38名

受講者の所属大学および学部、学科等協定)

大学名等	学部
愛媛大学	農学部
岡山大学	農学部
香川大学	農学部
独立広島大学	生命環境学部
高知大学	農学部
島根大学	生物資源科学部
鳥取大学	農学部
広島大学	生物生産学部
山口大学	農学部
計	受講者数

### 3. 講義および実習内容

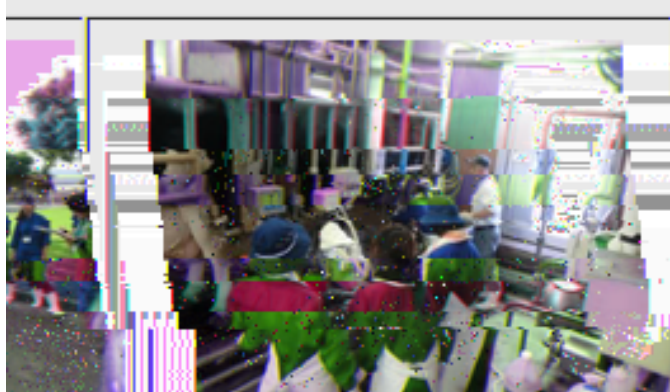
詳細はこちらのPDFをご覧ください。（内容は

23年度の案内と同じものです）。

### 4. 演習風景

本演習は、受講生が乳牛の飼育管理や搾乳作業などを通して、酪農の現場を体験的に学び、草と家畜(特に乳牛)と土との循環の中でミルクを生産して食品に加工していく過程を体験的に学び、講義、実習および

本演習は、受講生が乳牛の飼育管理や搾乳作業などを通して、酪農の現場を体験的に学び、草と家畜(特に乳牛)と土との循環の中でミルクを生産して食品に加工していく過程を体験的に学び、講義、実習および



<家畜の飼養管理①>  
ミルクパーラーでの乳牛の搾乳作業を行いました。



<実習開始>  
作業着に着替えていよいよ実習開始。



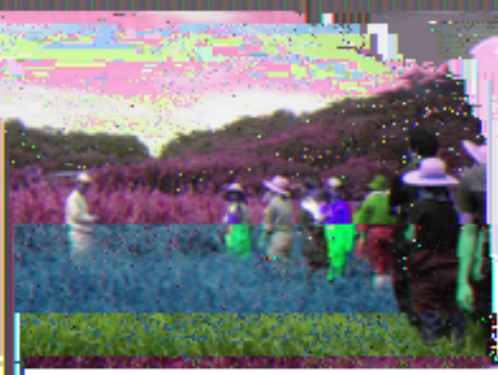
<家畜の飼養管理②>  
搾乳ロボットを使った搾乳作業とそのメンテナンス方法を学びました。



<交流会>  
1人ずつ自己紹介を行い、受講動機や自分の専門分野、関心事等について話しながら交流を深めました。



乳牛のライフサイクルについて



<家畜と草(牧草)との関係>  
実際に草地を歩きながら圃場生育する牧草を見て回り、牧草や飼料作物、放牧について学びました。



<家畜の人工授精>  
子宮と卵巣、精子の観察等の実習について理解を深めました。



乳牛の乳加工について



<濃厚飼料（家畜の飼料）>  
濃厚飼料の重要性や飼料の配合について学びました。



<乳牛・肉牛の遺伝的特性>  
ウシの品種(乳用・肉用・その他)について、遺伝的・育種学的な観点から講義が行われました。



<課題発表会>  
提示されたテーマ（「私達が考える理想の酪農について」）について報告に発表が行われました。